

## 2-2 国語学

### 研究・教育活動の概要と特色

国語学専攻分野は、文学部発足当初からの長い伝統を有し、国語学の領域全般に亘って研究と教育を続けてきました。特に、国語史学と方言学については、歴代の主任教授の方針を受け継ぎ、堅実な資料収集と分析に基づいた着実な研究成果を積み重ねるとともに、学生の指導と後継者の養成に精進してきました。それに加え、最近では、現代語研究の分野においても、研究・教育に一定の成果を上げるようになってきました。

国語史学については、特に語彙の研究に特色が見られ、研究対象・目的を、従来の語史の記述から語彙史の記述へとレベルアップさせるとともに、それに見合った方法論の開発に努めています。方言学については、地の利を活かし、東北方言を中心に分析と記述を長年行なってきましたが、最近では、「東北方言研究センター」を立ち上げ、社会と連係した研究を展開しています。なお、毎年、授業の一環として方言調査を行っており、フィールドワークの技術開発や指導にも力を注いでいます。現代語研究は、留学生の増加を背景とし、現代語文法を中心に、対照研究をも視野に入れつつ研究・指導を行なっています。

本専攻分野では、各教員が自らの研究の進展を踏まえつつ責任を持って個別に学生を指導するとともに、大学院演習や研究会など、教員・学生が専門の枠を越えて互いに啓発し合う場を確保することを通して研究・指導を行なうことをモットーとしています。

### 組織

#### 1 教員数（2011年9月末現在）

教授：2

准教授：2

講師：0

助教：1

教授：斎藤倫明 小林隆

准教授：大木一夫 甲田直美

## 2 在学生数（2011年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
42	7	12	18	1

## 3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
07	8	6	6
08	13	7	4
09	6	5	6
10	10	6	2
11	1	0	2
計	38	24	20

\* 2011年度は、9月末までの数字

## 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2006～2010年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	4	1	5
08	2	0	2
09	6	2	8
10	3	0	3
11	2	0	2
計	17	3	20

\* 2011年度は、9月末までの数字

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

李仙花、2007年度、『意味的観点からみた構文の研究 - 関連する構文との対照を中心に - 』

審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・千種眞一、教授・小林隆、准教授・大木一夫、准教授・名嶋義直

櫛引祐希子、2007年度、『日本語方言語彙の意味変化に関する研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・後藤斉、准教授・大木一夫

新井小枝子、2007年度、『養蚕語彙の文化言語学的研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・千種眞一、准教授・大木一夫

小西いずみ、2007年度、『富山県方言の文法に関する研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・才田いずみ、准教授・大木一夫

石井正彦、2007年度、『現代日本語の複合語形成論』

審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・千種眞一、教授・小林隆、准教授・大木一夫

梁敏鎬、2008年度、『外来語の受容に関する日韓対照研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・才田いずみ、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美

作田将三郎、2008年度、『庶民語記録による東北地方語史研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・後藤斉、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美

楊淑雲、2009年度、『現代日本語における擬態語の研究』

審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、教授・千種眞一、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美

彦坂佳宣、2009年度、『日本語方言史の研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・千種眞一、准教授・大木一夫

松崎安子、2009年度、『近代文語文の文体論的研究』

審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、教授・佐藤伸宏、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美

吉田雅昭、2009年度、『日本語文末表現の研究』

審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・千種眞一、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美

- 張雅智、2009 年度、『現代日本語における否定疑問文と傾き』  
審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、准教授・大木一夫、准  
教授・甲田直美、准教授・名嶋義直
- 王秀芳、2009 年度、『在日中国人の言語使用に関する社会言語学的研究』  
審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・才田いずみ、准  
教授・大木一夫、准教授・甲田直美
- 澤村美幸、2009 年度、『日本語方言形成論の研究』、  
審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・後藤斉、  
准教授・大木一夫、准教授・甲田直美
- 新野直哉、2009 年度、『現代日本語における進行中の変化の研究「誤用」  
「気づかない変化」を中心に』  
審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・才田いず  
み、准教授・大木一夫
- 鳴海伸一、2010 年度、『漢語の国語化と副詞化』、  
審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、教授・千種眞一、  
准教授・大木一夫、准教授・甲田直美
- 中西太郎、2010 年度、『待遇的観点から見た日本語あいさつ表現の研究』、  
審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・才田いず  
み、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美
- 山本志帆子、2010 年度、『近世武家社会における待遇表現体系の研究 - 『桑  
名日記』にみる桑名藩下級武士を中心として - 』  
審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・後藤斉、  
准教授・大木一夫、准教授・甲田直美
- 佐藤高司、2011 年度、『群馬県方言の社会言語学的研究 - 30 年間の若年層  
における方言使用の動態 - 』  
審査委員：教授・小林隆（主査）、教授・斎藤倫明、教授・千種眞一  
准教授・大木一夫、准教授・甲田直美
- 金殷模、2011 年度、『現代日本語における授受表現の研究 - 『てもらう』  
文と『てくれる』文を中心として - 』  
審査委員：教授・斎藤倫明（主査）、教授・小林隆、教授・才田いず  
み、准教授・大木一夫、准教授・甲田直美

## 2 大学院生等による論文発表

## 2- 1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
07	4	4	0	1	9
08	11	2	1	1	15
09	9	4	1	0	14
10	11	3	0	2	16
11	1	2	0	0	3
計	36	15	2	4	57

\* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

## 2- 2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	1	8	4	0	13
08	1	8	8	0	17
09	0	11	7	0	18
10	1	5	1	0	7
11	0	4	3	0	7
計	3	36	23	0	62

\* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

## 2- 3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

### (1) 論文

澤村美幸 「方言伝播における社会的背景 - 『シャテー(舎弟)』を例として - 」  
『日本語の研究』3-1、2007

作田将三郎 「地方語文献資料としての庶民記録 - 飢餓資料・農事日記・年代記  
について - 」『日本語の研究』3-2、2007

鳴海伸一 「「次第」の国語化と時間副詞化」『訓点語と訓点資料』119、2007

川越めぐみ 「東北方言から見た宮沢賢治の童話のオノマトペ」『文芸研究』163、  
2007

吉田雅昭 「東北方言における基本的時間表現形式について - 形式の変化と文法  
体系との相関 - 」『日本語の研究』4-2、2008

佐藤志帆子 「『桑名日記』にみる近世末期下級武士の待遇表現」『日本語の研  
究』4-2、2008

澤村 美幸 「葬式を表す語方言分布の形成と社会的要因」『日本語の研究』  
4-4、2008

- 中西太郎 「「あいさつ」における言語運用上の待遇関係把握」『社会言語科学』11-1、2008
- 張雅智 「「ではないか」の断定用法」『国語学研究』47、2008
- 鳴海伸一 「「一所」から「一緒」へ」『文芸研究』165、2008
- 三浦佑子 「原因・理由を表す複合接続助詞と時制との関わり」『文芸研究』165、2008
- 津田智史 「談話からみる徳島県のアスペクト表現の今昔」『山口幸洋博士記念論集』桂書房、2008
- 王其莉 「日本語の『だらう』と中国語の『吧』」『文芸研究』166、2008
- 吉田雅昭 「青森県津軽方言地域における文末・接続表現『キャ』の用法」『文芸研究』167、2008
- 張雅智 「現代日本語における疑問文の『傾き』 - 肯定・否定疑問文の機能を通して - 」『文化』72-3・4、2009
- ジスク・マシュー 「和語に対する漢字の影響 - 『写』字と『うつす』の関係を一例に - 」『漢字教育研究』10、2009
- 松崎安子 「明治期の文語文による政治小説の文体類型 漢文訓読的性格を有する語の使用実態からみた文体分類」『国語学研究』48、2009
- 鳴海伸一 「『相当』の意味変化と程度副詞化」『国語学研究』48、2009
- 吉田雅昭 「新潟方言の文末詞「テ(バ)」について」48、2009
- 楊淑雲 「擬態語+する の形式と人称制限 感情・感覚を表す場合」『国語学研究』48、2009
- 澤村美幸 「意味変化と地域差・位相差 『スガル』を例として」『国語学研究』48、2009
- 澤村美幸 「方言の形成と意味変化 - 『スガリ』を例として - 」『東北文化研究室紀要』50、2009
- 安本真弓 「構文的機能から見た中古形容詞の特徴 意味との関わりから」『国語学研究』48、2009
- 王秀芳 「挨拶場面における在日中国人の言語使用 ニューカマーとオールドカマーの比較」『文化』73-1・2、2009
- 王秀芳 「在日中国人留学生の言語使用における言語意識・言語能力の影響について」『社会言語科学』11-2、2009
- 張雅智 「『～ないか』の確認的な機能 確認要求『～ではないか』との比較を通して」『文芸研究』168、2009

- 陳劫憚 「結果複合動詞の語形成の意味条件と生産性」『言語科学論集』  
13、2009
- 中西太郎 「東北地方のあいさつ表現の分布形成過程—朝の出会い時の表現を中心にして」『東北文化研究室紀要』51、2010
- 内間早俊 「奄美・沖縄方言の力行子音変化とその要因」『言語科学論集』  
15、2010
- 澤村美幸 「「死」をめぐる言葉 - 方言学の立場から - 」、『東北文化研究室紀要』51、2010
- 澤村美幸 「言語的発想法の地域差と社会的背景」、『東北大学文学研究科研究年報』59（共著）、2010
- 安本真弓 「古代日本語における形容詞と動詞の対応形態とその史的変遷」『国語学研究』49、2010
- 安本真弓 「中古の状態形容詞における動詞との対応とその要因」『文芸研究』170、2010
- 山本志帆子 「『桑名日記』にみる近世末期下級武士の働きかけの表現—授受補助動詞クレル類命令形を中心として—」『國語國文』79-6、2010
- 山本志帆子 「『桑名日記』にみる近世末期下級武士の命令表現」『社会言語科学』13-1、2010
- 山本志帆子 「『桑名日記』にみる近世末期下級武士の人称代名詞」『近代語研究』15、2010
- 山本志帆子 「『桑名日記』にみる近世末期下級武士の第三者待遇表現」『国語学研究』49、2010
- 陳劫憚 「語彙的複合動詞の自他交替と語形成」『日本語文法』10-1、2010
- 李仙花 「受身文と自動詞文の関連性について—固有性と連続性の観点から—」、『国語学研究』49、2010
- 山下真里 「『広』の字体について - 略字体の出現時期とその要因 - 」『漢字文化研究』1、2010
- 金殷模 「『てもらう』文の基本的意味と周辺の意味との関係」『国語学研究』49、2010
- ジスク・マシュー 「意味の上の漢文訓読語 - 和語『あらはす』に対する漢字『著』の意味的影響 - 」『訓点語と訓点資料』125、2010
- 田附敏尚 「青森県五所川原市方言における不定の文末形式『ガ』につい

- て」『国語学研究』50、2011
- 陳劭憚 「語彙的複合動詞の連続性と派生の方向性について」『国語学研究』50、2011
- 坂喜美佳 「『咲く』の方言形『サス』の成立 - サ行イ音便との関係から - 」『国語学研究』50、2011
- 王其莉 「日本語の『はずだ』と中国語の『應該』」『国語学研究』50、2011
- 川越めぐみ 「山形県寒河江市方言におけるA BラA Bラ型オノマトペについての考察」『国語学研究』50、2011
- 山下真里 「異体字が広まる一過程 - 『鉦』という字体を一例に - 」『訓点語と訓点資料』128、2012

## (2) 口頭発表

- 王秀芳 「中国人留学生の言語使用における個人的要因」 社会言語科学会、2007年3月
- 櫻井真美 「山形市方言『ツタラ』の用法と世代差」 日本方言研究会、2007年5月
- 川越めぐみ 「山形県寒河江市方言におけるA BラA Bラ型オノマトペについての考察」 日本語学会、2007年5月
- 佐藤志帆子 「『桑名日記』にみる近世末期下級武士の待遇表現」 日本語学会、2007年5月
- 三浦祐子 「原因・理由を表す複合助辞と時制との関わり」 日本文芸研究会、2007年6月
- 梁敏鍋 「外来語の使用実態及び意識に関する社会言語学的な研究」 韓国日本語学会、2007年10月
- 梁敏鍋 「韓国における外来語の使用実態と受容要因」 日本言語学会、2007年11月
- 李仙花 「反使役化自動詞文と受身文との関わりについて」 日本語学会、2007年11月
- 張雅智 「否定疑問文の機能と『傾き』」 日本語学会、2007年11月
- 澤村美幸 「<葬式>を表す方言分布の形成と社会的背景」 日本語学会、2007年11月
- 安本真弓 「中古における感情形容詞と感情動詞の対応とその要因」 日本語学



- 会、2007年11月
- 内間早俊 「奄美佐仁方言のm > wについて - 先島方言のw > bとの比較を通して - 」 日本方言研究会、2007年11月
- 三浦佑子 「プラスの意味を表す複合接続助詞 - 「おかげで」「だけあって」におけるプラス性の違い - 」 日本語学会、2008年5月
- 王其莉 「日本語の「だろう」と中国語の「吧」」 日本文芸研究会、2008年6月
- 金殷模 「「てもらう」文の基本的意味から周辺の意味へ」 日本語学会、2008年11月
- 田附敏尚 「青森県五所川原市方言における推量形式「ビョン」について - 「べ」との対比をもとに - 」 日本語学会、2008年11月
- 王秀芳 「挨拶場面における在日中国人の言語使用 - ニューカマーとオールドカマーの比較 - 」 日本語学会、2008年11月
- 楊淑雲 「擬態語の程度表現について - 形容詞を修飾する場合 - 」 日本語学会、2008年11月
- 松崎安子 「明治前期における文学的文語文の文体類型 漢文訓読的性格を有する語の使用実態による翻訳文体の分類」 日本語学会、2009年5月
- 澤村美幸 「方言の分布と文化的背景—『焼畑』の名称を例に—」 日本語学会、2009年5月
- 陳劭憚 「自他交替可能性から見る複合動詞形成 構成要素の結果一致性の観点から」 MLF2009、2009年7月
- 張雅智・田附敏尚・中西太郎・内間早俊 「疑問文じゃないですよ“？” 若年層における『？』（疑問符）の使用意識」 社会言語学会、2009年9月
- 山本志帆子 「『桑名日記』にみる近世末期下級武士の第三者待遇表現」 近代語学会、2009年12月
- 坂喜美佳 「「カエス」のサ行イ音便と「カヤス」の成立」 日本方言研究会、2009年10月
- 鳴海伸一 「漢語『随分』の受容と程度副詞化」 日本語学会、2009年11月
- 津田智史 「南九州地方のアスペクト表現 カタ・ゴッの文法化について」 日本語学会、2009年11月
- 王其莉 「日本語の『はずだ』と中国語の『应该』」 日本語学会、2009年11月
- ジスク・マシュー 「和語『あかす』に対する漢字『明』の影響」 日本語学会、

- 2009年11月  
澤村美幸 「「死」をめぐる言葉 - 方言学の立場から - 」 東北文化研究室シンポジウム「死を見つめる心 現代東北の葬送文化」、2009年11月
- 李仙花 「受身文と『てもらう』文の意味的関連性について—関与(Inclusion)と排除(Exclusion)における潜在的解釈の観点から—」 日本言語学会、2009年11月
- 魏ふく子 「東京方言における性向語彙の研究」 国語学研究会、2010年2月
- 澤村美幸 「日本の文化領域と言語的発想法の方言形成」 言語・文化の領域形成に関する研究会、2010年3月
- 中西太郎 「南九州地方の朝のあいさつ表現—コンニチワマダゴワシタの衰退と代替表現の台頭—」 国語学研究会、2010年3月
- 中西太郎 「朝のあいさつ表現の変遷—南九州地方の非定型表現地域に注目して—」 日本語学会、2010年5月
- 陳劫憚 「語彙的複合動詞の連続性と派生の方向性について」 日本語学会、2010年5月
- 王其莉 「中国語の『應該』と日本語の『べきだ』」 漢日対比言語学研究会、2010年8月
- 内間早俊 「琉球方言における八行子音の変遷」 国語学研究会、2010年9月
- ジスク・マシュー 「古代日本語の書記表現における漢字の意味的影響 - 『のす』と『載』の関係を中心に - 」 訓点語学会研究発表会、2010年10月
- 内間早俊 「琉球方言の八行p音再考」 日本語学会、2010年10月
- 坂喜美佳 「『咲く』の方言形『サス』の成立 - サ行イ音便との関係から - 」 日本語学会、2010年10月
- 坂喜美佳 「鹿児島県における動詞の音便について」 国語学研究会、2011年5月
- 佐藤高司 「群馬県方言におけるペーの動態 - 若年層に対する30年間の経年調査から - 」 日本語学会、2011年5月
- 陳劫憚 「再試行を表す複合動詞『～直す』の語形成 - 語彙的複合と統語的複合動詞の連続性 - 」 日本言語学会、2011年6月

- 鯨井綾希 「品詞構成の変動が文章に与える影響について - 多変量解析による要素の抽出を通じた分析 - 」 日本文芸研究会、2011年6月
- 田附敏尚 「青森県五所川原市方言の『のだ』相当形式『ンダ』『ンズ』の相違」 國學院大學国語研究会前期大会、2011年7月
- 田附敏尚 「青森県五所川原市方言の文末形式とイントネーション」 国語学研究会、2011年10月
- 鯨井綾希 「名詞の反復的使用と文章の性質の違いとの関係性について - Type/Token Ratio を通じた分析 - 」 社会言語科学会、2011年9月

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

- ジスク・マシュー・ヨセフ：漢検研究奨励賞（優秀賞）、2009年3月
- 山下真里：漢検漢字文化研究奨励賞（優秀賞）、2011年3月
- 山本志帆子：東北大学総長賞、2011年3月

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

- 2008年度 DC2 採用 1名
- 2009年度 DC2 採用 1名
- 2010年度 DC2 採用 1名、PD 採用 1名
- 2011年度 DC2 採用 2名

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

- 2008年度 学部 計1名 全北大学（韓国）

#### 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
07	9	17	26
08	13	14	27
09	15	13	28
10	18	17	35
11	10	15	25
計	65	76	141

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
07	0	2	2
08	0	1	1
09	0	1	1
10	1	1	2
11	1	0	1
計	2	5	7

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

玉懸元 中京大学文学部講師 2007年度  
林青樺 台湾淡江大学外国語学部助理教授 2007年度  
小西いずみ 広島大学大学院教育学研究科講師 2008年度  
新井小枝子 群馬県立女子大学非常勤講師 2008年度  
李光赫 中国大連理工大学外国語学院副教授 2008年度  
百留康晴 島根大学教育学部講師 2008年度  
作田将三郎 北海道教育大学旭川校講師 2009年度  
小針浩樹 台湾輔仁大学日本語文学系助理教授 2009年度  
松崎安子 米子工業高等専門学校講師 2010年度  
張雅智 台湾育達商科技大学人文社会学院助理教授 2010年度  
王秀芳 中国南開大学副教授 2010年度  
澤村美幸 和歌山大学教育学部講師 2011年度  
櫛引祐希子 追手門学院大学国際教養学部講師 2011年度  
山本志帆子 佐賀大学文化教育学部講師 2011年度  
鳴海伸一 東北大学大学院文学研究科助教 2011年度  
吉田雅昭 韓国高麗大学文化大学講師 2011年度

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

高校教員1名、  
ジャーナリスト1名、

## 8 客員研究員の受け入れ状況

南台科技大学（台湾）副教授（陳志文）2007年7月1日～7月31日  
淡江大学（台湾）助理教授（林青樺）2008年8月1日～8月31日  
淡江大学（台湾）助理教授（林青樺）2009年8月1日～8月31日  
札幌大学准教授（佐々木冠）2010年4月1日～9月30日  
中京大学准教授（後藤英次）2011年4月1日～2012年3月31日  
淡江大学（台湾）助理教授（林青樺）2011年8月3日～9月3日

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

2007年度：2名（中国・台湾）  
2008年度：1名（台湾）  
2009年度：1名（台湾）  
2011年度：1名（台湾）

## 10 刊行物

『国語学研究』（47集～51集：年刊）  
『東北大学大学院文学研究科言語科学論集』（第11～15号：年刊）[言語学専攻分野・日本語教育学専攻分野と共同で刊行]

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2007年度 日本方言研究会事務局  
2008年度 東北文化講演会「いま、方言が面白い！」開催  
シンポジウム「山田文法の現代的意義」開催  
2010年度 日本方言研究会副事務局  
2011年度 日本方言研究会事務局  
研究報告会「東日本大震災と方言」開催

## 12 専攻分野主催の研究会等活動状況

国語学研究会の開催  
2007年度：6回（第340回～345回）  
2008年度：6回（第346回～351回）  
2009年度：6回（第352回～357回）  
2010年度：6回（第358回～363回）

2011 年度：4 回（第 364 回～367 回）

### 1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

国語学専攻分野は、この 5 年間、国語学の領域全般に亘って研究・教育活動を展開してきました。具体的には、当専攻分野の伝統に従って、大きく、国語史学・方言学・現代語研究の 3 分野態勢を取り、国語史学は大木一夫准教授、方言学は小林隆教授、現代語研究は斎藤倫明教授と甲田直美准教授が中心になって担当し、研究および学生指導に精力的に当たってきました。その結果、多数の大学院生を社会に送り出すとともに、多くの優秀な人材を学界へデビューさせることができました。また、学問の性質上、方言学の分野では、社会からの連係の要請が、また、現代語研究の分野では、留学生を通して東アジア諸国との関係強化の要請が強く、そのいずれに対しても、できるだけ積極的に対応するように務めてきました。その結果、当専攻分野はそれらの方面でも高く評価されています。

具体的な当専攻分野における研究活動として第一に挙げられるのは、方言学に関する活動です。2004 年度には、「東北大学方言研究センター」を立ち上げ、以後、調査資料のデータベース化、学生の教育、マスコミの方言企画への協力等の社会的な要請に積極的に対応してきました。また、2008 年度には、東北文化講演会に協力し、「いま、方言が面白い！」を開催しました。方言関係では日本で唯一の全国学会である「日本方言研究会」の事務局も担当しています。第二に、国際交流に関して、客員研究員、中国政府派遣研究員という形で多くの外国人研究者を受け入れ、教員や学生との研究上の交流を図ってきました。なお、2007 年度以降、斎藤倫明教授が韓国、台湾へ出張し、日本語学に関する学会で講演を行ったり集中講義を行ったりしました。第三に、当専攻分野では、毎年 1 冊『国語学研究』という研究誌を刊行していますが、この 5 年間（5 冊）で計 60 本以上の研究論文を掲載しました。執筆者は大学院生と卒業生が中心ですが、教員や当専攻分野に縁のある全国の研究者が質の高い論文を執筆し、学界から高い評価を得ています。その他年に 5、6 回「国語学研究会」という公開の研究発表会を開催しています。

当専攻分野における教育活動として挙げられるのは、第一に、大学院生の受け入れ数の多さです。特に、当専攻分野では外国人留学生を数多く受け入れ、この 5 年間で、文学研究科で最も多い計 141 名（延べ数）の留学生を受け入れています。中心は、韓国、台湾、中国の東アジアからの留学生ですが、アメリカ、オーストラリアからも来ています。また最近は、タイやモンゴル、ポーランド、リトアニア、スリランカといった従来あまり交流のなかった国からの留学生も受け入れています。第二に、学位授与ですが、

当専攻分野は、この5年間で、課程博士を17名出しており、毎年コンスタントに2名以上課程博士の学位を授与しています。第三に、大学院生の研究活動に対する支援ですが、雑誌論文の執筆に関して、上記『国語学研究』を始め、言語科学専攻で共同発行している『言語科学論集』、文学研究科の発表誌『文化』を中心に発表するように指導しています。その他できるだけ全国学会誌にも投稿することを勧めており、この5年間で、日本語学会(国語学会)の機関誌『日本語の研究』に5本、日本語文法学会の機関誌『日本語文法』に1本、社会言語科学会の機関誌『社会言語科学』に3本、訓点語学会の機関誌『訓点語と訓点資料』に3本、日本文芸研究会の機関誌『文芸研究』に7本というように、数多くの論文を大学院生が発表し、それぞれ学界から高い評価を得ています。なお、論文発表の前段階として、全国学会での口頭発表にも力を入れています。

最後に、特筆すべき点として、次の二つを挙げます。一つは、2008年度に研究科長裁量経費を得て、研究室の初代教授である山田孝雄博士の没後50年を記念し、「山田文法の現代的意義」を開催することを通して斯学の発展に大いに貢献したことです。そしてもう一つは、今般の東日本大震災との関わりで、2011年10月に「東日本大震災と方言」という名称の研究報告会を開催することになっている点です。これは、東日本大震災で被災した地域の方言を取り上げ、その現状と問題点を明らかにするとともに将来への保存の在り方をめぐってさまざまな観点から議論するものです。

以上、国語学専攻分野における過去5年間の研究・教育活動について述べました。

## 教員の研究活動(2007~2011年度)

### 1 教員による論文発表等

#### 1-1 論文

齋藤倫明「語構成と品詞 - 『以上』を対象として - 」『東北大学文学研究科研究』58、東北大学文学研究科, pp.65-91, 2009

齋藤倫明「語彙史としての語構成史」, 『シリーズ日本語史 2 語彙史』, 岩波書店, pp.35-72, 2009

齋藤倫明「複合語の語構成要素間に見られる使役的關係について」, 『国語語彙史の研究』29, 和泉書院, pp.261-274, 2010

齋藤倫明「複合語の語構成要素間に見られる受身的關係について」, 『文化』74-1/2, 東北大学文学研究科, pp.1-19, 2010

齋藤倫明「言語単位から見た文法論の組織 - 山田文法を出発点として - 」, 『山田文法の現代的意義』ひつじ書房, pp.31-51, 2010

- 斎藤倫明「複合語に見られる間接的な受身的関係について」,『国語と国文学』88-1, pp.1-14,2011
- 小林隆「文法的発想の地域差と日本語史」,『日本語学』26-11,明治書院,pp.76-83,2007
- 小林隆「方言形成における中央語の再生」,『シリーズ方言学1 方言の形成』,岩波書店, pp.1-42,2008
- 小林隆「言語的発想法の地域差と歴史 - 配慮表現に触れつつ - 」,野田尚史編『日本語の対人配慮表現の多様性』科研費報告書,pp.233-246,2009
- 小林隆「談話表現の歴史」,糸井通浩・半沢幹一編『日本語表現学を学ぶ人のために』,pp.188-211,2009
- 小林隆「言語的発想法の地域差と社会的背景」,『東北大学文学研究科研究年報』59,pp.127-162,2010(共著)
- 小林隆「言語的発想法の地域差と歴史」,『国語学研究』49,pp.73-86,2010(共著)
- 小林隆「オノマトペの地域差と歴史 - 「大声で泣く様子」について - 」,『方言の発見』,ひつじ書房, pp.21-47,2010
- 小林隆「日本語方言の形成過程と方言接触」,『日本語学』2010年11月臨時増刊号, 明治書院,pp.32-44,2010
- 小林隆「日本における方言調査・記録の現状 - 「消えゆく日本語方言の記録調査」の取り組み - 」,『新国語生活』20-3,pp.38-52,2010
- 小林隆「感動詞「猫の呼び声」」,『宮城県・山形県陸羽東線沿線地域方言の研究』pp.162-172,2011
- 大木一夫 「認識する文」,『東北大学文学研究科研究年報』第57号, pp.1-27, 2008
- 大木一夫 「口語文法論としての小林好日『標準語法精説』の位置」『文芸研究』166, pp.12-24, 2008
- 大木一夫 「古代日本語動詞基本形の時間的意味」『国語と国文学』86-11, 2009
- 大木一夫「古代日本語動詞の活用体系—古代日本語動詞形態論・試論—」『東北大学文学研究科研究年報』59, pp.1-36,2010
- 大木一夫 「文の成立—その意味的側面」斎藤倫明・大木一夫(編)『山田文法の現代的意義』ひつじ書房, pp.75-96, 2010
- 甲田直美・天野碧「文章記憶の自由再生における分散効果の研究」『滋賀大学教育学部紀要 : 人文科学・社会科学』54, pp 25-32. 2005
- 甲田直美・廣田卓也「説明的文章の要約作成と文章理解」『パイディア』14、pp.127-134. 2006
- 甲田直美(Naomi Koda) Balancing Contextual Effect with Processing Effort:



Assessment of Relevance Theory. *Culture* 70-1/2, pp. 387-400. 2007

甲田直美 (Naomi Koda) Connective Interference and Facilitation: Do Connectives Really Facilitate the Understanding of Discourse? *The Annual Reports of Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University*, 56.pp.29-42. 2007

甲田直美「日本語のレトリックとテキスト」『人環フォーラム』23,pp.24-27.2008

甲田直美「テキスト理解の既定因 - 読み手の受容スタイルと論証パターンから」『ことばと認知のメカニズム』ひつじ書房, pp.589-601.2009

## 1- 2 著書・編著

斎藤倫明『近代日本語学確立期の研究』（編著）,平成 20 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書,107p,2009

斎藤倫明・大木一夫編『山田文法の現代的意義』ひつじ書房 pp.313,2010

斎藤倫明『これからの語彙論』（編著）,ひつじ書房,印刷中,2011

小林隆『シリーズ方言学 3 方言の機能』（編著）,岩波書店, 171p, 2007

小林隆『シリーズ方言学 4 方言学の技法』（編著）,岩波書店, 221p, 2007

小林隆『ガイドブック方言調査』（共編著）,ひつじ書房, 212 p, 2007

小林隆『日本語方言形成モデルの研究』（編著）,平成 18 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書, 123p, 2007

小林隆『シリーズ方言学 1 方言の形成』（編著）,岩波書店, 222p, 2008

小林隆『方言の発見』（編著）,ひつじ書房, 207p,2010

小林隆『言語的発想法の地域差とその形成に関する研究』（編著）,平成 22 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書,98p,2011

小林隆『宮城県・山形県陸羽東線沿線地域方言の研究』（編著）,東北大学国語学研究室,241p,2011

大木一夫『古代日本語連体形の機能とその変遷—係り結び文・連体形終止文を視座として—』,平成 21 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書, 136p,2010

甲田直美『文章を理解するとは - 認知の仕組みから読解教育への応用まで』（単著）,スリーエーネットワーク, 200p, 2009

## 1- 3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

### (1) 辞典項目

斎藤倫明「形態」「形態素」「語構成」「語根」「接辞」「接頭辞」「接尾辞」

「派生語」、『日本語学研究事典』、明治書院、2007年

## (2) 解説

大木一夫 「日本語史1」(平成17年18年国語国文学会の動向),『文学・語学』  
第190号,63-67,2008

大木一夫 「古くて新しい古典文法」,阿子島香編『ことばの世界とその魅力』(人  
文社会科学講演シリーズIII),東北大学出版会,pp.53-88,2008

## (3) 書評

斎藤倫明 「〔書評〕由本陽子『複合動詞・派生動詞の意味と統語 - モジュール形  
態論から見た日英語の動詞形成 - 』」『日本語の研究』3-2、2007年

甲田直美「石黒圭著『日本語の文章理解過程における予測の型と機能』」『日本語の  
研究』5-4、2009年

## (4) その他

斎藤倫明 「語彙」,益岡隆志編『はじめて学ぶ日本語学』,ミネルヴァ書房,2011  
年

大木一夫 「日本語史1」(平成17年18年国語国文学会の動向),『文学・語学』  
190号,pp.63-67,2008

大木一夫 「古くて新しい古典文法」,阿子島香編『ことばの世界とその魅力』(人  
文社会科学講演シリーズIII),東北大学出版会,pp.53-88,2008

大木一夫・田附敏尚・鳴海伸一・安本真弓・佐藤志帆子(編)「東北大学史料館蔵  
小林好日(元法文学部教授)旧蔵資料目録(稿)」『近代日本語学確立期の研  
究』(科学研究費補助金基盤研究(C)報告書、研究代表者:斎藤倫明),pp.56-100,  
2009

大木一夫 「東北大学史料館蔵小林好日(元法文学部教授)旧蔵資料目録(稿)解  
説」『近代日本語学確立期の研究』(科学研究費補助金基盤研究(C)報告書、  
研究代表者:斎藤倫明),pp.101-107,2009

## 1-4 口頭発表

### (1) 国際学会

斎藤倫明 講演「複合語に見られる間接的な受身的関係について」台湾日本語文  
学会、台湾淡江大学、2009年12月19日

甲田直美 The Interrelationship of Reading Comprehension Processes and Summary  
Protocols for JFL Learners./ 日本人学習者における読解過程と要約文の相関

PJPW : Princeton Japanese Pedagogy Workshop Princeton University, USA.  
2003.5.

甲田直美 Computer-Assisted Language Learning: Its Scope and Limits. The  
International Forum on "Educational Cooperation and Teaching and Learning  
Foreign Languages" 80th Anniversary of Chiang Mai Rajabhat University, Thailand  
2005.2

甲田直美 (Naomi Koda) Cultural Thought Patterns: A Case Study of Arabic and  
Japanese. Presented at International Symposium on Comparative Literature and  
Linguistics, ESCL: Egyptian Society of Comparative Literature, Egypt 2007.4

甲田直美 (Naomi Koda) Hypothesis-testing and self-monitoring reading. アメリカ日  
本語・日本文学学会, USA, 2010.3

甲田直美 (Naomi Koda) Reading comprehension, text organization, and thinking styles:  
A five-country survey. 23rd World Congress on Reading, International Reading  
Association, New Zealand, 2010.7

## (2) 国内学会

小林隆「方言の20世紀」,日本語学会シンポジウム,関西大学,2007年5月26日

小林隆「方言の分布と文化的背景 - 「焼畑」の名称を例に - 」,日本語学会ポスター  
発表,武庫川女子大学,2009年5月(共同)

小林隆「日本の文化領域と言語的発想法の方言形成」,言語・文化の領域形  
成に関する研究会,2010年3月(共同)

小林隆「消えゆく日本語方言の記録調査 - 『日本言語地図』との関連で - 」,  
大規模方言データの多角的分析研究会,2010年3月

小林隆「言語的発想法の歴史と方言の形成」,日本語学会シンポジウム,日本女子大  
学,2010年5月

小林隆「東西・言葉の発想法」,國學院大学国語研究会平成22年度後期大会,國學  
院大学,2010年11月

小林隆「方言分布の経年比較 - 分布はどう動くか? - 」,方言の形成過程解明のた  
めの全国方言調査研究発表会,国立国語研究所,2010年12月

小林隆「方言圏論の現在」,東北文化研究室柳田国男五十年祭記念シンポジウム,  
東北大学,2011年11月

甲田直美・廣田卓也「要約文の生成過程に関する一考察」,第45回日本教育心理学  
会,大阪国際会議場(発表論文集,p.817),2003年8月

甲田直美「文章における論証の仕方が信念の変化に及ぼす効果」『日本心理学会  
第70回大会発表論文集』p.961. 第70回日本心理学会、九州大学、2006年11  
月

甲田直美・スライマーン アラー エルディーン「文章における論証の仕方が信  
念の変化に及ぼす効果 - アラビア語母語話者の場合 - 」『日本心理学会第71  
回大会発表論文集』p.181. 第71回日本心理学会、東洋大学 2007年9月

甲田直美・王其莉・楊雅銀「文章における論証の仕方が信念の変化に及ぼす効果  
- 中国語母語話者の場合 - 」第49回日本教育心理学会、文教大学 2007年  
9月

甲田直美「理解、思考、テキスト-方法論の検討と併せて-」第7回京都市言  
語学コロキウム年次大会、京都大学、2010年8月

### (3) その他

斎藤倫明 講演：日本語語彙の分類について - 語彙・語彙論とは何か - (台湾致  
遠管理学院国際講演会)、台湾致远管理学院、2007年4月27日

斎藤倫明 講演「現代日本語の語彙論と他分野との関わり」台湾南台科技大学、  
2008年5月2日

斎藤倫明 講演「現代日本語の語彙論とその課題」台湾文藻外語学院、2008年5  
月3日

斎藤倫明 講演「複合語の構成要素間に見られる受身的関係について」台湾淡江  
大学、2008年12月5日

斎藤倫明 「言語単位から見た山田文法の組織をめぐって」(「シンポジウム 山  
田文法の現代的意義」)、2008年11月29日

斎藤倫明 講演「日本語複合名詞の構造について - 語構成要素間に見られる使役  
的關係を中心に - 」(国際シンポジウム「21世紀の人文科学」)韓国昌原大学、  
2009年10月29日

斎藤倫明 講演「複合名詞の語構造と語彙の教育 - ヴォイス的關係が見られる場  
合 - 」(2010 南台科技大学華語教育文化交流講座)、台湾南台科技大学、2010  
年6月15日

斎藤倫明 講演「拘束形式の二字漢語と日本語教育」(2010年言語・外国語教育  
研究シンポジウム - スキルとしての外国語・教育 - )、台湾輔仁大学、2010年  
11月20日

斎藤倫明 講演「現代日本語の語彙について」、台湾淡江大学、2010年11月22日

齋藤倫明 講演「拘束形式の複合字音語基について - その特質と分類 - 」台湾大学、2010年11月23日

齋藤倫明 講演「現代日本語の語彙と語彙分類」,台湾高雄大学,2010年11月24日

## 2 教員の受賞歴(2007~2011年度)

なし

### 教員による競争的資金獲得(2007~2011年度)

#### (1) 科学研究費補助金

2007~2008年度 課題番号:18520348 基盤研究(C)小林好日を通して見た近代日本語学確立期の学史的研究 研究代表者:齋藤倫明 2,700,000円

2009~2011年度 課題番号:21520466 基盤研究(C)山田孝雄・小林好日を視座とした近代日本語学確立過程の学史的研究 研究代表者:齋藤倫明 3,160,000円

2007~2008年度 課題番号:17320072 基盤研究(B)日本語の対人配慮表現の多様性 研究分担者:小林隆

2007~2008年度 課題番号:18520348 基盤研究(C)小林好日を通して見た近代日本語学確立期の学史的研究 研究分担者:小林隆

2007~2010年度 課題番号:19520384 基盤研究(C)方言形成における中央語再生現象の研究 研究代表者:小林隆 1,860,000円

2007~2010年度 課題番号:19320067 基盤研究(B)現代日本語の感動詞の実証的・理論的基盤構築のための調査研究 研究分担者:小林隆

2009~2011年度 課題番号:21520466 基盤研究(C)山田孝雄・小林好日を視座とした近代日本語学確立過程の学史的研究 研究分担者:小林隆

2010~2011年度 課題番号:22520484 基盤研究(C)日本語方言オノマトペの記述モデル構築に関する研究 研究分担者:小林隆

2011年度 課題番号:23520543 基盤研究(C)言語運用における発想法の地域差と社会的・歴史的背景についての研究 研究代表者:小林隆 1,800,000円

2007~2009年度 課題番号:19520383 基盤研究(C)古代日本語における連体形の機能とその変遷 研究代表者:大木一夫 2,080,000円

2007~2008年度 課題番号:18520348 基盤研究(C)小林好日を通して見た近代日本語学確立期の学史的研究 研究分担者:大木一夫

2009~2010年度 課題番号:21520466 基盤研究(C)山田孝雄・小林好日を視座

- とした近代日本語学確立過程の学史的研究 研究分担者：大木一夫  
2007～2008年度 課題番号：18720139 若手研究(B)テキストにおける「論証の  
仕方」と日本語学習者の文章理解・作成の相関の解明 研究代表者：甲田  
直美 1,500,000円
- 2009～2011年度 課題番号：21720181 若手研究(B)読解促進材料が日本語  
学習者の文章理解・作成へ及ぼす効果の解明 研究代表者：甲田直美  
1,820,000円
- 2009～2011年度 課題番号：21520466 基盤研究(C)山田孝雄・小林好日を視座  
とした近代日本語学確立過程の学史的研究 研究分担者：甲田直美

## (2) その他

### 1) 総長裁量経費

なし

### 2) 研究科長裁量経費

- 2008年度 斎藤倫明・小林隆・大木一夫・甲田直美「公開シンポジウム 山田  
文法の現代的意義」開催(研究科長裁量経費)
- 2011年度 小林隆・国語学研究室の学生たち「東日本大震災の被災地におけ  
る方言支援事業」(研究科長裁量経費)

### 3) 文化庁委託事業

- 2011年度 小林隆「東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言  
の実態に関する予備調査研究事業」

## 教員による社会貢献(2007～2011年度)

- 斎藤倫明 財団法人仙台国際交流協会主催日本語教師ボランティア育成講座講  
師 2007～2010年度
- 斎藤倫明 出演：「池・沼・湖」の相違(東北放送、ウォッチン宮城)2009年  
9月9日
- 斎藤倫明 出演：「すっとんきょう」「ひょんなこと」の語源(ミヤギテレビ、  
OH! バンデス)2010年5月19日
- 小林隆 監修・出演：ことばマガジン(東日本放送) 2007～2010年度
- 小林隆 講演：方言 - 言語の多様性を探る - (東海高校・中学サタデープログ  
ラム)2008年2月
- 小林隆 出演：知ったか仙台弁(東北放送) 2008年度

- 小林隆 講演：方言は語る（宮城県高等学校国語教育研究会）2008年5月
- 小林隆 講演：方言の隠れた魅力（東北文化室講演会 - いま、方言が面白い！  
- ）2008年10月
- 小林隆 講演：民話と方言（山形短期大学公開講座）2008年11月
- 小林隆 監修：仙台弁かるた（東北放送）2008年12月
- 小林隆 講演：常識を問い直す - 方言から見た日本語の歴史 - （東北大学入学  
式）2009年4月7日
- 小林隆 出演：知ったか仙台弁スペシャル（東北放送）2009年5月25日
- 小林隆 寄稿：方言を通して日本語の歴史を探る（『夢ナビ』, フロムページ）  
2009年8月
- 小林隆 講演：仙台と方言（せんだい豊齢学園）2009年10月19日
- 小林隆 講演：東と西：ものの言い方、話し方（東北大学サイエンスカフェ）  
2009年11月27日
- 小林隆 寄稿：方言のDNAから日本語の歴史を解き明かす（『東北大学 Annual  
Review2009』, 東北大学総務部広報課）2009年
- 小林隆 講演：古くて新しい方言の魅力（みやぎの魅力再発見セミナー）  
2010年1月28日
- 小林隆 講演：“物の言い方”に見る東西差（東北大学 103 周年関西交流会）  
2010年2月6日
- 小林隆 寄稿：とうほく 方言の泉（河北新報朝刊 連載）2010年5月～
- 小林隆 寄稿：当たり前を疑う。常識を覆す。（『考えるということ』5, 東北大  
学文学部）2010年6月
- 小林隆 寄稿：“物の言い方”に見る東西差（『U7』333, 学士会）2010年8月
- 小林隆 寄稿：ひらめく、ということ（『曙光』30, 東北大学学務審議会）2010  
年10月
- 小林隆 講演：仙台と方言 - その現状と将来 - （せんだい豊齢学園）2010年  
10月8日
- 小林隆 講演：言葉遣いに見る日本の地域差（東北大学教育学部同窓会仙台支  
部第30回記念総会講演会）2010年11月7日
- 小林隆 講演：東北地方の文化と言語（日本赤十字看護学会「東北地方の文化  
と言語の研修会」）2011年7月18日
- 小林隆 パンフレット作成：支援者のための気仙沼方言入門（東北大学国語学  
研究室）2011年8月27日

小林隆 研究報告：東日本大震災と方言（東北大学方言研究センター研究報告会）2011年10月9日

大木一夫 講義：ことばの歴史をさぐる—日本語の歴史入門—（宮城県仙台第二高等学校「仙台二高—日大学」）,2009年12月3日

大木一夫 講義：ことばの歴史をさぐる—日本語の歴史入門—（福島県立安積高等学校大学模擬授）,2010年7月1日

大木一夫 講義：ことばはなぜ変化するのか—歴史言語学入門—（秋田県立横手高等学校大学模擬講義）,2010年9月1日

大木一夫 講演：「へえ～」がいっぱい おもしろい“漢字”のお話 日本の漢字問題の歴史（仙台リビング新聞社 2010 リビングカレッジ）,2010年9月27日

大木一夫 寄稿：「漢字の話」（リビング仙台、連載）2011年4月～

#### 教員による学会役員等の引き受け状況（2007～2011年度）

斎藤倫明

日本語学会評議員（2007～2011年度）

日本語学会常任査読委員（2010～2011年度）

日本語文法学会評議員（2009年度～2011年度）

日本文芸研究会委員（2007～2011年度）

小林隆

日本語学会評議員（2007～2009年度）

日本語学会大会企画運営委員長（2007～2008年度）

日本方言研究会世話人（2008～2010年度）

日本方言研究会事務局（2007・2010・2011年度）

日本文芸研究会委員（2007～2011年度）

日本文芸研究会編集委員長（2008年度）

日本学術会議連携会員（2011年度）

大木一夫

訓点語学会委員（2006～2011年度）

日本文芸研究会委員（2006～2011年度）

日本語文法学会大会委員（2010～2011年度）

甲田直美

日本語文法学会学会誌委員（2010～2011年度）



## 教員の教育活動（2011年度）

### （1）学内授業担当

#### 1 大学院授業担当

齋藤倫明

- 1 学期 日本語構造論特論 語構成と文法
- 1 学期 日本語変異論研究演習 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語変異論研究演習 国語史・方言研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論研究演習 現代語研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論研究演習 現代日本語研究の諸問題
- 2 学期 日本語構造論講読 近世言語論の講読
- 通年 課題研究

小林隆

- 1 学期 日本語構造論研究演習 方言調査法
- 1 学期 日本語変異論研究演習 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語変異論研究演習 国語史・方言研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論特論 方言学的日本語史研究
- 2 学期 日本語変異論研究演習 現代語研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論研究演習 現代日本語研究の諸問題
- 通年 課題研究

大木一夫

- 1 学期 日本語変異論研究演習Ⅰ 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語変異論研究演習 国語史・方言研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論研究演習 現代語研究の諸問題
- 2 学期 日本語変異論研究演習 現代語研究の諸問題
- 1 学期 日本語変異論特論 日本語文法研究
- 2 学期 日本語変異論講読 漢字漢語の研究
- 通年 課題研究

甲田直美

- 1 学期 日本語変異論研究演習 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語変異論研究演習 国語史・方言研究の諸問題
- 1 学期 日本語構造論研究演習 文章・談話の構造
- 2 学期 日本語変異論研究演習 現代語研究の諸問題

2 学期 日本語変異論研究演習 現代語研究の諸問題  
2 学期 日本語構造論特論 文章・談話の構造論  
通年 課題研究

## 2 学部授業担当

斎藤倫明

第3 セメスター 現代日本語学概論 現代日本語の語彙と語彙論  
第4 セメスター 現代日本語学概論 現代日本語の文法と文法論  
第5 セメスター 現代日本語学各論 語構成と文法  
第6 セメスター 現代日本語学講読 近世言語論の講読

小林隆

第4 セメスター 国語学概論 方言研究  
第5 セメスター 現代日本語学演習 方言調査法  
第6 セメスター 国語学各論 方言学的日本語史研究

大木一夫

第3 セメスター 国語学概論 日本語史の方法  
第5 セメスター 国語学各論 日本語文法研究  
第6 セメスター 国語学講読 漢字漢語の研究

甲田直美

第3 セメスター 国語学基礎講読 現代語講読  
第4 セメスター 現代日本語学概論 現代日本語学の諸問題  
第5 セメスター 現代日本語学演習 文章談話の構造  
第6 セメスター 現代日本語学各論 文章・談話の構造論

## 3 共通科目・全学科目授業担当

小林隆

人文社会科学総合「研究と実践の倫理」 聴き取り調査の実践と倫理の  
諸問題

異文化クロスセッション 言葉遣いに見る発想法の地域差

大木一夫

第2 セメスター 言語学 日本語の構造と変化

甲田直美

第1セメスター 基礎ゼミ 情報検討術：思考の落とし穴を探り、複  
眼的視点を持つ

(2) 他大学への出講(2007～2011年度)

斎藤倫明

宮城学院女子大学非常勤講師 2007～2011年度

台湾南台科技大学非常勤講師 2008・2010年度

国立台湾大学非常勤講師 2007年度

北京日本学研究センター派遣教授 2011年度

小林隆

宮城学院女子大学非常勤講師 2007～2011年度

尚綱学院大学非常勤講師 2010・2011年度

群馬県立女子大学非常勤講師 2007～2011年度

東京大学非常勤講師 2008年度

大木一夫

盛岡大学文学部非常勤講師 2005～2008年度

宮城学院女子大学非常勤講師 2010年度

中国河南師範大学非常勤講師 2011年度

甲田直美

京都外国語大学大学院非常勤講師 2006年度